

..... 編集後記 .....

◆今年も最後の月を迎えました、暗いニュースが多かったような気がします。日本という国はどうなってしまったのでしょうか。「衣食足りて、礼節を知る」という言葉があります。今の日本では、衣食は十分過ぎるほどあり、欲しいものはたちどころに入ります。犬猫さえ残飯で飼う時代ではないのです。しかし、その反面信じられない事件が頻発しています。現状を説明するために、「衣食余りて、心を失う」という新しい格言が必要なようです。全てが豊富になりますと、それを確保するための共同体を必要としない社会が生まれます。このような社会では他人のことを気にせず生存していけますから、家庭という小単元から崩壊が始まり最後に国を滅ぼします。人が心を失ったらどうしようもありません。今の日本には、物質欲を満足させる知識よりも心の糧となる知識を教えることが必要でしょう。そのためには、学校では地学や生物を必修にしたら良いのではないのでしょうか。

◆さて、今月号は地質調査所の所長、工業技術院長を歴任された石原氏の巻頭エッセイから始まります。編集部としては、石原氏の指摘する“アマ”への地質情報の伝達を心がけていますので、気軽に投稿下さい。

◆我々は土木工学の力で自然を屈服させようとしてきましたが、その限界が明確になってきました。

土木工事において単純な合理性の追及だけでは地質災害を防げないことを高橋氏等が述べております。これらの地質災害の要因については別の考え方もあるでしょう。ご意見のある方は是非ご投稿ください。

◆地震が起こりますと地下浅所の砂が噴き出し、被害を与えることがあります。羽坂氏等は札幌平野の液状化の事例と発生要因について解説し、発生予測図を作ることが可能だとしています。ご一読ください。

◆吉川氏等は採泥器の開発の苦労話を寄せてくれました。

◆地質調査所では色々な調査・研究をしています。その守備範囲が地質を超えていますので、最近では地球科学と称する場面が多くなりました。我々の生活によって水が汚染されています。この水をどのようにして浄化するかは大事な問題です。山室氏の案はシジミの自然浄化力を使おうというものです。シジミの味噌汁しか思いつかない人には、目から鱗の話でしょう。

◆ライマン雑記の著者の副見さんについて、読者からどのような方がお書きなのか知りたいとの要望が寄せられています。副見さんをお願いしてご紹介できればと思っています。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第520号 1997年 12月号 定価¥785 (本体価格¥748) ㊦実費
1997年12月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	株式会社 実業公報社
	代表者 林 光生
発行所	株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073 Tel. (03) 3265-0951 (代表) Fax. (03) 3265-0952 振替口座 00110-6-32466 麹町局私書箱第21号
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。